平成２７年度　国立吉備青少年自然の家教育事業
吉備ボランティア養成研修

１．事業の目的（趣旨・ねらい）

青少年の体験活動を支援するボランティアとして基礎的な知識や技術を習得し、施設ボランティアとしての資質や能力の向上を図る。

２．事業の概要

（１）期日

平成２７年５月２３日（土）～２４日（日）１泊２日

（２）参加者

①募集対象・人数

高校生、大学生（専門学校生を含む）及び社会人・３０人

②参加人数

４６人　（大学生４２人、高校生３人、社会人１人）

（３）講師等

講義１「ボランティア活動の意義」

内容：ボランティア活動の意義について理解するとともに、ボランティア活動における心構えや留意点を学ぶ。

講師：前国立吉備青少年自然の家　所長　小林　道正　氏

講義２「青少年教育施設の現状と運営」

内容：青少年施設の教育機能や役割、運営について理解する。

講師：国立吉備青少年自然の家　次長　髙藤佳明

講義・演習１「ボランティア活動の技術」

内容：各施設の特性に応じたプログラムに対応するための知識技術等を学ぶ。

講師：国立吉備青少年自然の家職員　主任企画指導専門職　宇江　賢

説明１「青少年教育施設におけるボランティア活動」

内容：青少年教育施設におけるボランティア活動内容を理解する。

報告：国立吉備青少年自然の家継続ボランティア　１１人

講義３「青少年教育」

内容：今日の青少年教育の課題及び発達段階に応じた体験活動の必要性を理解する。

講師：公益財団法人　ＹＭＣＡせとうち　代表理事　太田　直宏　氏

講義・演習２「安全管理」

内容：応急手当など救命救急に必要な知識・技術を学ぶ。

講師：日本赤十字社　岡山県支部指導員　３人

説明２「青少年教育施設におけるボランティア活動」

内容：法人ボランティア登録制度について理解する。

説明：国立吉備青少年自然の家職員　企画指導専門職　河本　潤

（４）企画・運営のポイント

① 昨年度に引き続き、岡山県内のすべての大学に広報活動を行った。施設ボランティアが所属する大学では、広報する際にそのボランティアにも広報活動に参加して活動の様子を紹介してもらった。

② 今年度から活用する「青少年教育施設ボランティア養成研修テキスト」を講師に見ていただき、講義内容等の参考としていただいた。

③ 施設ボランティアに説明１の企画運営を任せ、活動内容や活動から得た喜びなどを共有して参加者と施設ボランティアの距離を縮める内容で実施した。

④ 運営面で時間が逼迫することが予想されたので、時間を意識して行動できるように、参加者が常に活動の見通しを持たせるように指導した。

３．活動の内容等

（１）日程

5 月 23 日（土）		5 月 24 日（日）	
9:30	受付	6:15	起床・洗面・清掃
10:00	開講式	7:15	朝のつどい
10:30	オリエンテーション	7:30	朝食・荷物移動
11:15	講義 1 ボランティア活動の意義	9:00	講義 3 青少年教育
12:45	昼食	10:45	講義・演習 2 安全管理
13:45	講義 2 青少年教育施設の現状と運営	12:45	昼食
15:00	講義・演習 1 ボランティア活動の技術	13:45	講義・演習 2 安全管理
19:15	説明 1 青少年教育施設におけるボランティア活動	15:00	説明 2 青少年教育施設におけるボランティア活動
21:00	入浴	16:30	閉講式
22:00	就寝		

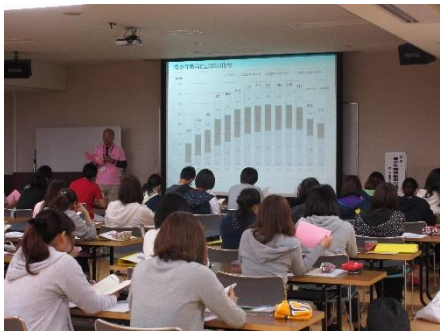
（２）活動の状況

【開講式】

【オリエンテーション】

【講義1】

【昼食の様子】



【講義2】

【講義・演習1】

【説明1】

【講義3】

【講義・演習 2】

【説明2】

４．成果・課題

（１）満足度

満足：９８％　やや満足：２％

（２）参加者の声

①　様々な活動を通してボランティアをしたいという気持ちが高まった。また、参加した人たちと仲良くなれたり、交流が深めることができたりした。

②　今後のボランティアに参加したくなるような話が沢山聞けて良かった。

③　ボランティアに関することのプログラムだったが、ボランティア活動以外にも知っていて役に立つことばかりだった。

④　分かりやすい説明と間違っている点はしっかりと指導してくれるあたたかく良い運営だった。

（３）成果

①　今年度も定員を上回る参加者があり、大学生等の社会貢献活動に対する意欲を感じることができた。

②　広報も全県的に行い、そのニーズに応えることができた。

③　外部講師には、アイスブレイクを交えながら、分かりやすく講義をしていただき、参加者はボランティアとして基礎的な知識や技能を習得することができた。

④　継続ボランティアと参加者の距離も寝食を共にすることで近づけることができ、今後の活動への意欲の向上を図ることができた。また、継続ボランティアのスキルアップにもつなげることができた。

（４）今後の課題

①　今回登録したボランティアが活躍できる場を設け、当研修での学びを実践に生かす機会を増やす。

②　活動した結果を県内外に広報し（例えばフェイスブック等）、施設ボランティアの活動の促進と活動の普及を図る。

③　施設ボランティアの自立に向けて、コーディネーターを中心として所全体で支援する。

④　本研修で喚起された意欲を持続させるために、養成研修後に参加が可能な教育事業を組み、ボランティアの活動につなげる。

担当:企画指導専門職　大下　展弘